



(参考) 主馬寮の前で撮影された儀装馬車(明治20年代前半頃)
 (『各種勝景 仙台・大阪・地方長官其他』当館蔵より)
 明治21年9月に英国から購入され、同22年2月11日の憲法発布式典に際して青山練兵場でおこなわれた観兵式に使用された。現在は明治神宮宝物殿において陳列されている。

30 岩倉公画伝草稿絵巻 第二十卷
 田中有美 一巻(二十一巻のうち)

明治二十二年(一八八九)
 絹本着色
 本紙四六・〇×八九五・一

明治の元勳岩倉具視の生涯を描いた一代絵巻の一場面。絵巻は宮内省による岩倉の年譜編纂事業の一環として制作され、大和絵の伝統を受け継いだ画家田中有美(一八三九〜一九三三)が揮毫を命じられた。

ここで描かれているのは、明治十六年(一八八三)七月十九日、病床に伏していた岩倉具視の容態が急変したとの報を奏上された明治天皇が、儀衛兵が揃うのも待たずに馬車を発し、岩倉邸へと駆けつける場面である。明治天皇に具合を問われた岩倉は「臣は陛下の萬歳を祈り奉るのみ」と答え、君臣ともそれ以上言葉を発することができず向かい合うのみだったという。作者の田中有美は絵巻の制作にあたり、あらゆる部分について入念な調査を行っており、ここでも明治天皇と宮内卿が一人陪乗する御料儀装馬車が、その構造までかなり正確に描写されている。

皇室と馬車の歴史を紐解くと、『明治天皇紀 第二(吉川弘文館、昭和四十四年)明治四年五月八日条に「佛蘭西國公使ウートレーを介して購入せる御料馬車一輛、再昨日宮内省御魔局に到着せるを以て、是の日、之れを吹上御苑に覽たまふ」とあり、これが初めての御料馬車だった。これは四人乗りの割幌馬車(幌を後方に畳むことができる馬車)であり、明治九年、十一年、十三年、十四年、十八年の各地巡幸および明治十年の大和国行幸等で使用された。本図で描かれているものは、明治七年に外務省より引き継いだ英国製の割幌馬車と思われる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に¹出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

こまくら
駒競べ——馬の晴れ姿

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 73

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十八年七月九日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonmaru Shōzōkan